



『多田銀銅山 (藍銅鉱)』

青木間歩 (まぶ=坑道のこと)、内部が見学出来るように整備された坑道はここだけです。暗い坑道を歩いてゆくと、途中から天井に鉱脈が走っています。水滴が落ちる10cmほどの幅には脈石 (みやくせき) の石英を含みますが、綺麗な紫色のつぶつぶや緑色の小塊が見えます。暗い中で写真撮影に挑戦しますが、近づけばフラッシュが強く真っ白の画面、離れると細かい部分が識別出来ません。全くの失敗写真、事前に準備し大きなライトを持って来るべきでした。

青木間歩には藍銅鉱 (らんどこう: 青色) や孔雀石 (緑色) が見られます。豊臣秀吉が絵師、狩野山楽に青色の顔料が採れる『紺青間歩 (こんじょうまぶ)』の採掘権を与えましたが、この間歩ではもっとたくさんの青色や緑色の鉱石が産出したのでしょうか。

岩群青 (ぐんじょう) と云われた顔料は藍銅鉱から作った岩絵具です。古来より東西で青をあらわし、省略して群青とも云われました。銅山が多い日本でも盛んに使用されましたが、孔雀石と混じって採れることが多いため精製が難しく、孔雀石からとれる緑青 (ろくしょう) の10倍の値段で取引され、群青60gで米一俵買えるほどだった。とウキペディアに記載されていましたが、どの時代のことは明記されていません。

5月3日ゴールデンウィークの中、姫路城の南、大手前広場で青空市が開かれていました。いつものように自転車で店を見て回ります。興味の的は古道具や金物屋、自然石の店です。見慣れない石を販売しているおじさんに『いつも、ここに店を出しているのですか?』と尋ねたところ『今回が初めてです。』販売していたアズライトと、表示されていた藍銅鉱と緑の孔雀石、水晶と石榴石 (ざくろいし) を購入しました。前回、銅山で撮影に失敗した代替品に使おうと思っています。藍銅鉱と孔雀石はともに銅の酸化した鉱石で、還元が簡単なので初期の製銅に使われましたが資源が不足したことと、製銅技術の向上により、黄銅鉱が使えるようになり、銅の生産量が大きく増加しました。



青木間歩 失敗写真



藍銅鉱



孔雀石

狩野山楽 (かのう さんらく : (1559年~1635年))

安土桃山時代~江戸時代初期の狩野派の絵師。浅井長政の家臣・木村永光の子光頼として近江国蒲生郡に生まれる。浅井氏が織田信長によって滅ぼされてからは豊臣秀吉に仕え、秀吉の命により狩野永徳の養子となり狩野姓を名乗る。山楽が重く用いられたのも、浅井氏に縁のある山楽の出自が理由だと思われる。(ウキペディアより)



狩野 山楽

『鉄のふしぎ博物館』開館

来て! 見て! ふれて! ふしぎ体感

鉄を見る目が変わりますよ。
ぜひお越しください。



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/>
ryou@memenet.or.jp
bike@kanamonoya.co.jp

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!